

## 熊本県立荒尾支援学校進路便り

# わーく&らいふ

令和6年度 最終号（通巻第100号）令和7年3月24日発行

### ■CONTENTS■

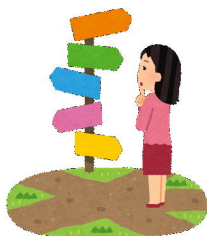
## 【特集】卒業生保護者からのメッセージ ～卒業生保護者の体験談に学ぶ～

進路だより「わーく&らいふ」では毎年、「卒業生保護者からのメッセージ」と題して特集記事をお届けしています。今年も卒業生18人（一般学級15人、重複障がい学級3人）の保護者からお寄せ頂いたアンケート結果の中から、在校生の保護者の皆様や私たち教職員に向けたメッセージをご紹介します。

特別支援学校は、小学生から高校生までが学ぶ場であり、下級生にとっては、上学年・学部へのあこがれを生み、子どものキャリア発達を刺激するよい環境と言えます。

また保護者の皆様にとりましても、身近な場所に、数年あるいは10年ほど先を歩む先輩（生徒・保護者）たちの姿があることで、「将来必要なこと」に気づき、日頃の子育てのヒントや「今からできること」を知ることができるはずです。

今回の特集では、卒業生保護者から寄せられたメッセージの中から「進路選択に向けたポイント」をはじめ、「これまで効果的だった取組や足りなかった取組」などをお届けします。子育てを考える上での「様々な価値観」や「視点」に富んだメッセージが盛りだくさんです。学校生活を終える先輩保護者の今の複雑な「感慨」に思いを馳せながらどうぞお読みください。



### 質問1 「進路を決めるに当たってのポイントは何ですか？」

#### 【安心安全な環境】 キーワード「親も子も安心」

- ・一日怪我なく安心して過ごすことができ、本人が楽しめる所を選びました
- ・本人がリラックスして過ごすことができること。
- ・施設体験中、その環境に馴染めそうか、子どもの表情や子どもの言動を注視しました。また帰宅後の子どもの様子を見て、ストレスが溜まっていないか確認し、やっていけそうだと感じました。

#### 【親の情報収集】 キーワード「見て」「聞いて」

- ・本人が続けていくことができるかどうか。子どもにあった所が見つかるまで、いろいろな所に実習に行ってみて話も深く聞いておいた方がいいと思います。



- ・本人ができる作業内容かどうか。それと事業所全体の雰囲気を見て決めました。本人が楽しく無理なく通えることを一番に考えました。
- ・少しでも長く働けそうな場所を選びました。

#### 【子どもの意思を尊重】 キーワード「やりたい」を大切に、チャレンジ

- ・子どもの意思を尊重する。
- ・本人の気持ち（やりたい、やってみたい）を大切にしました。
- ・小さい頃（幼児～中学入学まで）本人のやりたい、やってみたいことを、障がいがあるから無理、まわりが受け入れてくれないだろうと思い、チャレンジすることを親が避けていたと思います。不安ながらも受け入れてくれるところを探し、チャレンジさせることで子どもの成長、乗り越える力があることを感じ本人の意思を優先する気持ちになれたと思います。親も成長させてもらえました。
- ・自分の子どもの得意なこと。（やってみて）興味をもてるか、何に向いているか考えました。

#### 【その他】

- ・子どもの特性に合った場所。

#### 「まとめ」進路選択のポイント

例年最も多いのが「本人の意思」の尊重です。今回も「チャレンジすることを親が避けていた。」と悔しさをにじませる声が印象的でした。

人が成長するためには、いろいろな「やりたいこと」がありそれらを「体験」することがとても重要と言われています。成功体験は自己肯定感につながりますし、たとえうまくいなくても、身近な大人と経過や結果を振り返ることにより、失敗からも成長の芽を育むことができます。このようにして芯の強い心も育っていくものと考えます。ぜひいろいろなことにチャレンジしましょう。

また、「親も子も安心」というキーワードも重要です。もしかすると子どもの一生を託すかもしれない進路を決める決断はそう簡単ではありません。本校では「現場実習」や「施設体験・施設見学」を通して、親も子も情報収集できる場を用意しています。活動の様子、子どもの表情や情緒の安定など色々な視点から「本人の意思を確認」し、「親の目で見た安心感」のある場所を考えていくことが大切です。

### 質問2 家庭の取組で「効果のあったこと。」「やって良かった。」と思うこと

#### 【生活リズムと習慣化】

- ・学校から帰宅後のルーティーン化。
- ・やるべきことをさっさとやって、その後を自由時間にすることで何を優先してやるべきなのかがはっきり見えるようになったのか、時間のやりくりが上手になったと思います。

### 【手伝い】

- ・毎日のお手伝いとお手伝いしたら１００円もらえる取組は長続きしているし、本人もやる気をもって頑張れています。洋服たたみも上手になりました。

### 【親子のコミュニケーション】

- ・子どもとの時間を大切にします。話をよく聞きます。
- ・時々会話の中でも成長を促していけるよう、困ったときや思うように行かないときの向き合い方を話していました。
- ・現場実習に行くときは不安でいっぱいだと思います。でも、よくできたときなどはほめてあげると自信につながると思いますのでよく話を聞いてあげてください。

### 【一貫性ある態度】

- ・一貫した態度をとること。（良いものは良い。だめなものはだめ）
- ・家族及び関わる人の見方を統一しておくこと。
- ・仕事といってもまだピンとこないと思います。実際職場体験に行く中で自分に向いている仕事に出会ったときに、親もしっかり賛同してみせました。あとは本人のやる気次第です。

### 【その他】

- ・添い寝をしないで寝かせてみようと思い、取り組むと数日でマスターしました。
- ・子どものやりたいことを尊重しました。寝たいときは好きなだけ寝せて疲れをため込まないようにしました。



#### 「まとめ」家庭生活のポイント

お寄せ頂いた声からは、子どもとじっくり向き合う時間の重要性がわかります。自分の行動が周りの人たちにどのように受け止められているのかを、肯定的にじっくり伝え育てる姿勢は大切にしたいものです。

また、家庭の中で役割を創る「家事・手伝い」は、できることが増えるだけでなく、人からほめられる経験を増やすことができる大切な場面です。ほめることは、自己肯定感を向上させ、意欲を育むために効果的な取組で、人のために行動する(はたらく)ための基礎を育みます。このようにお手伝いは、良いことづくめ。まずは特別なことをさせようとせず、親と一緒にいろいろな家事をやってみる経験から始めてみてはいかがでしょうか！

## 質問3 学校の学習・生活をとおして身につけたこと

### 【規則正しい生活】

- ・朝6：15～20に起きて夜10：00には寝る。これはずっと守れています。学校の準備も一人でできていました。

### ・時間の管理

### 【かかわる力】

- ・友達との関わりが上手になったと思います。（課題はまだまだありますが）
- ・コミュニケーション力の向上。まわりの言動に敏感なぐらい周りをよく見る力がついたと思います。
- ・他の人と仲良く過ごすこと。
- ・挨拶を気持ちよくできる。人を大事にできること。積極的に自分の思い、考え、「ヘルプ」を言葉にして伝えられるようになった。

### 【チャレンジする力】

- ・親がわからない部分・集団生活のなかで子どもの良い面を見つけていただき、本人の自信につながったと思います。新しいことにチャレンジする力をつけてもらえたと思います。

### 【身辺自立】

- ・立って排尿（チャックだけ外して）
- ・後片付け、部屋の電気を消す。落ちた物や取ったものを元の位置に戻す。

### 【その他】

- ・時間をまもること。
- ・話をよく聞いて伝えることができること。
- ・気持ちのコントロールが上手になりました。
- ・先生方の指示に従うこと。（年上、目上の人がいるということを意識すること）
- ・タイマーの導入による切り替えのスムーズさ。
- ・最後までやりとげること。



#### 「まとめ」学校生活

学校生活は、いろいろな人と「過ごす」「活動する」「はたらく」ことを学習するための大切な場所のひとつで、将来の社会生活への準備期間です。学校の集団生活には、苦手な活動があるばかりでなく、ルールや制約もたくさんあり、子どもにとって心地よいことばかりではありません。しかし、集団生活だからこそ、友人やクラスメイトにいい影響を受けて取り組み、課題を解決することができるのも学校です。こうして子どもたちは、将来社会を生きていく上で大切なことを学びます。

## 質問4 もっと力を入れておけば良かったと思うことは何ですか？

### 【余暇・地域生活】

- ・ダンスに挑戦させてあげたかったと思っています。卒業後に是非、挑戦してみようと思います。
- ・体力面が少し心配であるため、毎日走るなど体をも少し動かせていたらと思います。
- ・スポーツ。
- ・社会経験の場をもっと準備できれば良かったです。



### 【生活面】

- ・片付け、身だしなみ
- ・食生活にもう少し気をつけるべきだった。食事のランス（野菜果物不足などなど）
- ・トイレの自立



### 余暇生活は意外と重要！

「余暇生活」の充実が、生活の安定に大きく影響があると考えられます。給料を自分のために使ったことがなかった卒業生が、職場で不適応となり、余暇支援を受けることで回復した例もあります。とはいえ、休日の余暇プログラムはまだまだ少ないのが現状です。まずは親も子も楽しみにできる活動をいろいろ試してみましょう。

## 質問5 その他、在校生保護者へ伝えたいことは何ですか？

### 【レッツ チャレンジ！】

- ・チャレンジできることは何でもやってみる。
- ・経験が多いほどこれからの子どもたちの力になると思うので、出来ないと思っても、させてみるのもいいことだと思います。
- ・自信をもって何にでも挑戦してみてください。

### 【子どもとの時間を大切に！】

- ・子どもと過ごす時間を逃して後悔しないために一日一日子どもとの時間を大切に親子のコミュニケーションを楽しみましょう。
- ・12年間はあっという間に過ぎていきました。一日一日一つ一つの行事を楽しんでいってほしいと思います。思い出をたくさんつくってください。

### 【進路選びは早めに動いて】

- ・早めに動いて、自分の進んでみたいところの目星をつける。

### 【学校とともに歩みましょう！】

- ・荒尾支援学校での12年間はあっという間に過ぎていきました。どの学部でも親の話や子どものことにもすぐく親身になってくださり、安心して学校生活が送れたと思います。感謝しかありません。進路のことでも丁寧に相談にのってくださいます。子どもの力を信じて良い方向に導いてくださいます。きめ細やかな指導で安心できます。

## 編集後記

先輩保護者からのメッセージはいかがだったでしょうか。実際に進路選択に向けて取り組まれた卒業生保護者の皆様のメッセージには毎年学ぶことが多く、どのご意見も先輩保護者の経験から得られたものであるだけに、進路選択のみならず、日々の子育てに活かしたいことがたくさんありました。

「子どもとじっくり向き合うこと。」「子どもとの時間を楽しむこと。」「好きなこと、得意なことを見つけ伸ばすこと。」など、日頃はお仕事や家事で慌ただしく過ごしておられる日々の中にあっても大切にしたい「価値や考え方」だと思います。

今回の特集が、皆様にとって、いろいろな「価値」に触れ、各ご家庭の生活に反映され、子どものよりよい成長を促す一助になりますことを願っております。

本校では、様々な方法での、情報提供支援に力を入れております。これからも保護者の皆様のニーズに応える情報提供を進めて参りますのでご意見ご感想をお寄せください。本年度も進路だよりをお読みいただきありがとうございました。

(文責 谷口)

